

# 動く写真の活用事例

～鑑賞データベースの作成～

取組の 難易度	(準備)		
	(教員のICT活用能力)		
校種・学年	小・中学校	教科等	図画工作・美術
ICTを活用した 学習場面	C 1 発表や話し合い	領域・ 分野等	B 鑑賞
ICT 機器等の 準備等	授業	学習者用PC(タブレット端末) 本時では、動く写真(ライブフォトを使用) 提示用大型モニター	

## 1 事例の概要

動きのある作品をグループで鑑賞する際に、タブレット端末で動く写真を作成し、学級ごとにデータベース化する。データベースは、学級・学年の垣根を超え、鑑賞教材として活用する。

利点○、配慮事項

## 2 ICT 活用の利点や配慮事項

動く写真にすることで、映像作品として制作者の主題等を鑑賞者へ伝えることができる。

動く写真にすることで、短時間で造形的なよさを共有できる。(1作品3秒)

データベース化することで、学級全体での鑑賞や、自席での鑑賞をすることができる。

データベース化することで、他学級の作品や、他学年(前年度等)の作品を鑑賞することができる。

作品の色・形・イメージを損なわないように、撮影する角度や、光の当たり方等に配慮が必要である。

## 3 資料

二つ折りの立体カード(ポップアップカード)の鑑賞をグループで行う際に、動く写真を作成する。



各自のデータを、学級ごとの共有フォルダーに保存する。



このフォルダーを活用して、学級全体での鑑賞を実施する。



データベース化したことで、学級を超えての鑑賞会や、年度を跨いでの鑑賞も可能となる。